

<日本の语言词汇> - 防災 -

9月1日是「防灾日」，这是为了不要忘记关东大震災(1923年9月1日上午，关东大范围地区发生了直下型大地震，带来了巨大灾害)的教训，以及为了作好这个时期频繁发生的台风等自然灾害的精神准备而制定的日子。

在这个本来对于农业非常重要的时期，因为台风的袭击，造成田地被泥水淹没，强风把水稻的花吹飞，好不容易精心培育的稻谷不能结实，遭受歉收，被称为灾难之日。

就像日本的谚语「有备无患」说的那样，为了防备紧急的时候，如果作好避难场所的确认、紧急带出包的准备、够坚持3天的方便食品、饮用水的储备就可以安心。紧急带出包的主要内容是手电筒·紧急食品(罐装)·水·随身带收音机·救急工具·袜子·劳动用手套·内衣·生理用品·卫生纸·湿纸巾等东西。在防灾日，预先再检查一下上述东西，把这天定为把旧东西换成新东西的日子，这也许比较好。

<日本のことば> - 防災 -

9月1日の「防災(ぼうさい)の日」は、関東大震災(かんとうだいしんさい: 1923年9月1日の昼前に発生し、関東地方の広い範囲に大きな被害をもたらした直下型の大地震)の教訓を忘れないという意味と、この時期に多い台風等の自然災害への心構えの意味を含めて制定されたものです。

もともとこの時期は、農事の上で大切な時期に台風(たいふう)が来襲し、田んぼが泥水につかったり、強風で稲の花が吹き飛ばされてしまったりして、せっかく丹精に作ったお米が実らなくなってしまうため、「凶作(きょうさく)」に見舞われる「厄日(やくび)」とされていました。

「備えあれば憂いなし(そなえあればうれいなし)」という日本の諺にもあるように、いざという時に備え、避難場所の確認や非常持ち出し袋の用意をしたり、3日分程度のインスタント食品や飲料水を備蓄したりしておくで安心です。非常持ち出し袋の中身として主なものは、懐中電灯・非常食(缶詰)・水・携帯ラジオ・救急キット・靴下・軍手・下着・生理用品・トイレットペーパー・ウェットティッシュなどです。防災の日は、これらの内容を再点検し、古くなったものは新しいものに交換する日と決めておくのもいいかもしれません。